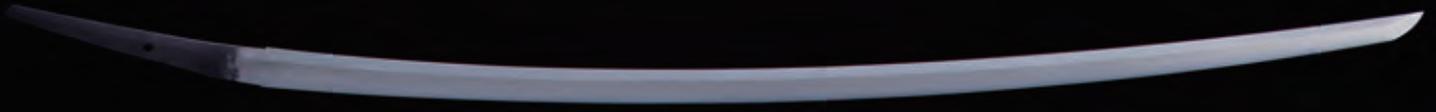


通卷140号

山王



御 挨拶

宮 司 宮 西 修 治

「コロナ禍」と称される状況になり早三度目の初夏、山王祭の時期を迎えました。

この間、仇敵は次から次へと変異を繰返し、本稿執筆時点では漸減傾向にあるものの依然「高止まり」の状況が続いています。

この令和四年は山王祭「本祭」の年、本来なら「神幸祭」を華々しく斎行し、打続く憂愁を一掃する予定でした。しかしながら現状は、神幸祭が斎行できる状況というには稍遠く、窮余の一策として「規模を大幅に縮小した上で、事前に検査を徹底し、奉仕者全員マスクを着けて…」という案も出しましたが、御承知のとおり行列の規模はすなわち神の勢威を表すもの、皇城の鎮と称えられる日枝神社の、まして日本三大祭のひとつ、さらには江戸三大祭の筆頭と謳われる伝統の神幸祭を、中途半端な形で行うわけにいかない、との思いから、前回に続き中止の決定を致しました。

「私も江戸っ子の端くれ、佻しいお祭をするくらいなら…」と、去る三月の祭典委員会で苦渋の決断に至った心情を吐露した次第です。「今年こそは」の思いで心待ちにして下さった氏子御崇敬の皆様には、今後更に二年お待たせする事になり、将に忸怩たる想いではありますが、何卒事情御賢察の上、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

また「山王祭」に於ける一連の諸祭典神事のうちの最重儀である十五日の例祭も、神職と役員総代のみで執り行うことと致しました。五百人近くの方々の御参列をいただいて盛大に斎行される例年の祭典に比べれば甚だ寂しい例祭ではありますが、神様と氏子御崇敬の方々の「神人和楽のひとつ」という祭の意義に変わりはありません。例年通り肅々と御奉仕し、責任役員、また氏子代表としての大総代の方々と共に、心ひとつに神恩に感謝し、更なる御加護をお祈り申上げる所存です。

やまひに ふせるひとこをみてたらあがりいへにこもるひじびらをあけてまにでかけたまゆらのおそれもいさかのうれひもなくますくをはつし
病 尔 臥 瀧 留 人 床 乎 出 立 上 里 家 尔 籠 留 人 扉 乎 開 介 互 町 尔 出 掛 介 魂 由 良 乃 懼 母 些 乃 憂 母 無 久 覆 面 乎 外 志
あ な は れ あ な た の し あ な さ や け と こ ろ に か か る く も も な く こ ゑ た け ら か に み だ の よ あ け つ げ る な が な き と り の ひ と こ ゑ に お た や か に し て
阿 奈 晴 阿 奈 樂 阿 奈 清 登 心 尔 掛 加 留 雲 母 無 久 聲 高 良 加 尔 都 乃 夜 明 告 夏 留 長 鳴 鷄 乃 一 聲 尔 穩 也 加 尔 志 豆
きよらかなるやすらかにしてにぎやかなるもつみよこのすがたにたちかへらしめたまへどかしみかしくもまをす
浄 良 加 奈 留 安 良 加 尔 志 豆 販 也 加 奈 留 元 都 乃 姿 尔 立 還 良 志 米 給 閉 登 恐 美 恐 美 母 白 須

過日の祈祷で奏上した祝詞の一節です。

「捲土重来」という言葉が適切かどうかわかりかねますが、来年こそは賑やかな山王祭を、そして再来年、令和六年には待ちに待った神幸祭を盛大に執行し、山王祭此処にあり、神幸祭ここにありと、天下に知らしむるべく努めて参ります。

令和四年 山王祭 行事日程

六月

七日（火）十一時

末社八坂神社例祭

十二日（日）十時

境内茶園並狭山新茶奉納奉告祭

十三日（月）十一時

表千家家元献茶式

同 十七時

献灯祭

十五日（水）十一時

例 祭

十六日（木）十一時

煎茶礼道日泉流献茶式

同 十三時

山王嘉祥祭

十七日（金）十時

裏千家家元献茶式

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年執り行っている祭典は神職並びに関係者各位で行い、神幸祭・稚児行列・山王音頭と民謡大会は中止致します。何卒ご理解の程お願い申し上げます。

特別寄稿



参議院議員 山谷えり子

昭和二十二年五月三日に日本国憲法が施行されて、今年で七十五年を迎えます。

ロシアによるウクライナ侵略、覇権主義を前面に押し出す中国や北朝鮮による軍事的脅威をはじめ、わが国をとりまく安全保障環境は大きく変化しています。また、未だ終息に至らないコロナ禍や大規模自然災害、地球規模での環境破壊など、憲法制定時には想定もしていなかった事態が起こっています。

しかしながら、わが国の憲法は占領時代、終戦直後の混乱の中に制定されて以来、一度も改正されたことがありません。

憲法の前文には「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」と記されていますが、非現実的であることは誰が見ても一目瞭然です。

世界の平和と安全を維持すること

が、いかに複雑でかつ困難であるかを現代に生きる私たちに切実な問いかけとして、突き付けられています。

また、自然災害の頻発、激甚化しているわが国においては、憲法に緊急事態条項を盛り込む必要があると考えます。

私が第二次安倍改造内閣で防災大臣だった当時、「憲法の壁」に阻まれた苦い経験がありました。

災害対策基本法はあっても、憲法が保障する財産権が壁となり、地方自治体が緊急対応できないという問題にしばしば直面したのです。例えば、平成二十六年八月に広島で起こった土砂災害の際、高級車が現場に放置されていて、所有者を探し移動の許可をとらねばなりませんでした。それまでの災害でも実際に撤去して他の車両が通行できるようにするまでに相当な労力と時間がかかりました。

そこで、私の在任中に所有者の確

認がなくても必要な場合には移動が出来るよう法改正しましたが、大規模災害に備えて、私権制限についての考え方、国会機能の維持をどう図るか、内閣の権限行使の範囲、国会議員の任期についてなどしっかり議論し、緊急事態条項を憲法に書き込むことが急がれます。

私は、全国各地をまわりながらミニ集会を重ね、なぜ憲法改正が必要なのかを皆様にお話させていただいております。

「時代に合った改正は必要だ」という意識が徐々に高まりつつある中、特に若い世代の皆さんはインターネットなどを通じ、日本の周囲には国際秩序を平気で壊す国が存在するということが肌で分かってきて、自国を守るためにも憲法改正は必要ではないか、という感覚を持たれる方が多いとも聞きます。

あたり前の日常がいかに脆く、儂いものであるかは、長引くコロナ禍でも多くの皆さんが痛感されたことでしょう。

学生時代に、「良き妻、良き母になりなさい。おナベは裏返して底まできちんと磨きなさい。そして台所の窓は開けておいて。窓からあなたを必要している人、場所があったら世界の果てまで駆けていき持てる力を発揮しなさい。与えて、与えて、

与えなさい。心が涙で水浸しになっても、体が傷ついても与えなさい。日本人の素晴らしさを誇りとし、灯をかかげなさい。そうすればあなたのかかげた灯を皆が喜び、周囲が明るくなりますから」という教育を受けた私は、常に「自分ができるか」と自問しながら、これまでの人生を歩んでまいりました。

明治天皇の御製

『おのが身は かへりみずして 人のため つくすやひとの つとめなるらむ』

私は、日本を守る―「家族、教育、国なおし」を政策の柱として、活動しております。国を守るということは、戦争やテロ等から「守る」といった大きなことと捉えられがちですが、日々の生活の中での仕事や家庭、地域などの日常そのものであり、農家の方が田畑を、経営者の方が会社を、子育て中の方が子供を、お年寄りがご自身の健康を守ることも、まさに「日本を守る」ことだと思います。

一人一人が、そのお役目を喜びもって務めていただけるよう、私も率先して働いてまいりたいと思います。



江戸祭禮研究

山瀬 一男

誠に残念乍ら令和四年の山王祭における神幸祭はコロナ禍の為中止となりました。山王祭の素晴らしさを感じるには体験して頂く事が一番ですが、山王祭の花形であった「山車」について理解を深める事で天下祭と呼ばれる祭禮を身近に感じていただきたいと思います。そこで以前の記事を改めて掲載致します。

江戸祭禮山車

山王祭は、慶長八年（一六三〇）に徳川幕府が開かれ、江戸城築城の天下普請がまだ初期段階であった元和元年（一六一五）に、山王祭の山車練物の行列が江戸城に入った時から始まったと言われています。その後、江戸古町から厳選された町々（山王権現氏子地外も含まれる）が、

山王祭に参加することが許されて大祭禮となり、その行列は四十五番組、山車の総数は五十五本を数えました。祭禮行列にはさらに、芸能を披露する「屋台」や「学び」や「見立」という現在の仮装行列等が加わり、祭禮当日は江戸城下町が祭り一色となりました。山王祭の七十数年後に始まった神田祭も同様に大祭禮となり、後年、山王祭・神田祭は天下の徳川將軍を寿ぐ『天下祭』と称されるようになったのです。

このように番組数、山車の総数を誇った天下祭ではありませんが、江戸の庶民には、毎回変わらぬ「山車」よりも、毎年出し物が変わる「屋台」や「学び」等の人気が高かったようです。とはいえ江戸の山車は、天下祭の華やかさの一翼を担い、現在も関東圏に影響を及ぼし続けています

が、江戸山車の形は、現在関東地方に見られるような三層構造の型式だったわけではありません。ごく初期の型式から江戸二百五十年余の時を経て発展していったのです。

山車とは

山の車と書いて、**山だし**と読んでいます。普通に読めば「やまぐるま」とか「さんしゃ」としか読めません。『花車』『栞車』と書いても「だし」と読み、「車栞」と書けば「だんじり」と読みます。

本来の表記は『山車』ではなく、『出し』と書きます。山車・花車等の表記は、この『出し』に対しての当て字なのです。それでは『出し』とは何なのでしょう。

祭禮とは、神祭であることから、神様をお迎えする所に、土或いは砂を山の形に盛って神事の場所を設けます。この場所を『山』と称します。さらに天界の神様が神事の場所に伝って降りやすいように『山』に一本の柱を立てます。これを『銚』と言います。加えて『銚』の入口がわかるように、銚の先端に目印の飾りを出します。目印を出すことから、これを『出し』と言うのです。出された飾り（依代）は、正確には『出し印』と記し、出し印は「花」道具

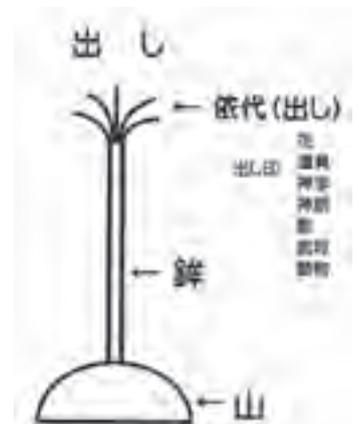


図1

「神事」「能の演目」「神話」「武將」「動物」など様々な形があります。江戸の町々は縁起を担いで出し印を選びました。このことから出し印を表す時には『出し』であり、車全体を表記する時は『山車』と記すべきでありましょう。また、山車を数える単位は、銚の数を数えることから『台』ではなく『本』となります。

※図①参照

江戸の山車 特徴と移り変わり

江戸天下祭の『山王祭』『神田祭』は、將軍家の御上覧を賜るので、その行列が江戸城に入城して行きました。そのため城門を潜ることから、山車の高さに制限がありました。その制限を取り払うために高さ調節の『からくり』が施されていたのが江

戸山車最大の特徴でありましょう。
明暦（一六五五）頃の山車は、鉾
と出し印のみで、それを手に持つか



①山王祭図屏風

囲桁に組んだ枠に鉾を立て担ぐ型式
で、非常に簡素であったことがわか
ります。①

現在、祭禮の時
に四神鉾が飾られ
ますが、江戸初期
の江戸山車様式が
四神鉾として受け継
がれています。②
元禄から正徳の
頃（一六八八〜
一七一五）は、各
町は山車と屋台を
出し、天下祭は隆
盛期となります
が、祭禮の主役は
屋台でありまし
た。山車は少しば
かり立派になりま
したが、囲桁枠を
担ぐ形に大した変
化はなかったよう
です。また、出し
印の後方に吹流し
に似た『吹貫』が
飾られた型が全盛
となりました。③
八代將軍徳川吉
宗の享保の改革
の儉約令により、
年々豪華になった

屋台を出すことが禁止され、山車の
みの祭禮となりました。主役であつ
た豪華な屋台は、芸能を見せる『踊
り屋台』と『底ぬけ屋台』とに分割
され、禁止令をすり抜けるようなか
たちに変まりました。

天下祭の行列には、山車・屋台
のほかには花万度が出ているので
す。この花万度はかなり大きな造り
物で、力自慢の男達が振り回したよ
うです。行列途中の道中で町境の
木戸を壊すなどが度々
あつたため、安永年間
（一七八〇）頃に、花
万度を担ぎ出すことが
禁止されました。する
と、江戸っ子達は、「振
り回さなければよかろ
う」と、山車に万度を
付けて曳万度としまし
た。これが一本柱万度
型の出現です。
それ以前の江戸山車
の大きさは、城門を『か
らくり』無しで潜れる
規模でしたが、一本柱
万度型は中心になる鉾
（柱）を後方に倒すこと
により、高さを調整し
て城門を潜るような仕
掛けで、山車の大きさ



②日本橋小舟町天王祭四神鉾

の規模も大振りになりました。④⑤
⑥ 文化文政期には、天下祭は隆盛と
なり天保の頃（一八三〇）に、山
車の多くは一本柱型万度型に替わ
り、さらに高欄と四方幕が付いた一
本柱高欄型が現れました。⑦
安政四年頃（一八五八）になると、
鉾を倒す型式から、三層せり出し型
と呼ばれる新たな高さ調節のからく
りを備えた江戸山車が現れるように

江戸の山車は活き続ける

時代は明治に、江戸は東京となり、祭禮では、江戸山車は一本柱型と三層せり出し型が混在して使われてい

なりました。出し印（三層目）と四方幕で飾られた二層目の枠を一層目の枠内に上下に出し入れが出来る仕組みで、二層目・三層目を可動させるための緒環（おだまき）という装置が取り付けられました。⑧⑨別の型式が他にもありますが、要約して記載しました。このように『城門を潜れる』或いは『潜る』ように工夫された山車が江戸型山車なのです。

今後に向けて

平成二十八年にユネスコ無形文化財遺産として山鉾屋台行事が登録

ました。江戸名物と言われた江戸山車の多くは、大正十二年（一九三三）の関東大震災によって消失してしまつたのです。しかしながら、江戸山車は現在も息づいています。東京都心部が神輿祭に変わってしまった今でも、祭禮で子供たちが曳く太鼓山車は、江戸山車を子供仕様にして活躍させているのです。これからも姿を変えた江戸山車は活き続けることでしょう。



③山王祭絵巻

されました。この内の約半数がその基を正せば江戸の祭禮天下祭・山王祭だったので、

将来何らかの機会を捉えて、江戸祭禮の伝統文化を世界中に評価されるような行事が開催されることを希望して止みません。

以上拙文ですが締めくくりと致します。社報「山王」一三八・一二九号の記事も参考にしていただきたいと思ひます。

日本橋住人記す



⑤鉦を倒し高さ調整する一本柱万度型



④掛川市横須賀に伝わる一本柱万度型花飾付山車



⑦一本柱高欄型の雛形
所有町は元四日市(現日本橋一丁目)出し「鳳凰」



⑥伊勢原比々多神社
一本柱万度型水垂付山車



⑨三層せり出し山車
佐倉市上町出し「日本武尊」
旧所有町は元四日市他三町(現日本橋一丁目)



⑧三層せり出し型破風屋根付山車
加須市本町出し「羅陵王」旧所有町は通油町他二町

奉 祝 山 王 祭

順 不 同 敬 称 略

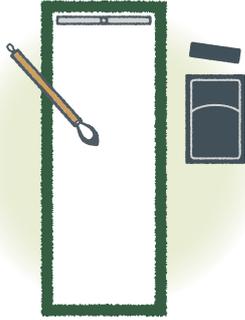
<p>山の茶屋 遠藤恒夫</p>	<p>山王熱供給(株) 代表取締役社長 津曲荒太</p>	<p>永田町・霞ヶ関 平河町</p>	<p>マネックス証券(株) 会長 松本大</p>	<p>八重洲ゴルフライフ 八重洲ライフ(株) 代表取締役社長 松本信義</p>	<p>(株)ぬり彦 代表取締役社長 中澤彦七</p>						
	<p>(有)ナリタ美容室 代表取締役 成田弘子</p>	<p>弁護士法人一番町総合法律事務所 代表社員 神崎浩昭</p>	<p>(株)ジョー・コーポレーション 代表取締役 堀切健司</p>	<p>(株)ジャパングレレイライン 代表取締役 眞下慶一郎</p>	<p>麹町ビルディング(株) 代表取締役 勝山勝</p>	<p>(株)ニュー・オータニ 代表取締役社長 大谷和彦</p>	<p>麹町・紀尾井町</p>	<p>(株)永田町天竹 会長 藤田誠</p>	<p>(株)アルファビデオ 代表取締役 青山朋孝</p>	<p>日枝神社四葉会</p>	<p>(株)ザ・キャピトルホテル東急 総支配人 志村恒治</p>
<p>(株)東京會館 取締役社長 渡辺訓章</p>	<p>泉吉(株) 代表取締役 岸本昌子</p>	<p>(株)帝国ホテル 取締役社長 定保英弥</p>	<p>東宝(株) 名誉会長 松岡功</p>	<p>東京技工(株) 代表取締役社長 林光男</p>	<p>大手町・丸の内 内幸町・有楽町</p>	<p>(株)千修 代表取締役社長 下谷友康</p>	<p>表千家 不審菴 家元 千宗左</p>	<p>(資)清水隆商店 代表社員 清水昭治</p>	<p>三番町 田中康博</p>	<p>(株)伊勢半本店 代表取締役社長 澤田晴子</p>	<p>番町・九段・四谷</p>
<p>金子架設工業(株) 代表取締役 青木茂</p>	<p>中西瀝青ホールディングス(株) 代表取締役 森口友美子</p>	<p>木村實業(株) 代表取締役 木村平右衛門</p>	<p>川崎定徳(株) 代表取締役 川崎眞次郎</p>	<p>日本橋吉野鮎本店 吉野正敏</p>	<p>東京建物(株) 代表取締役社長 野村均</p>	<p>(株)高島屋 専務取締役 亀岡恒方</p>	<p>(株)栄太樓總本舗 代表取締役社長 細田眞</p>	<p>日本橋ゆかり 野永喜一郎</p>	<p>八重洲・日本橋</p>	<p>(株)キョウエイアドインターナショナル 代表取締役社長 廣瀬勝巳</p>	<p>TANAKAホールディングス(株) 代表取締役社長 田中浩一朗</p> 
<p>(株)小松ストア 代表取締役 小坂敬</p>	<p>新銀座</p>	<p>中島金属箔粉工業(株) 代表取締役社長 中島武</p>	<p>清水建設(株) 取締役社長 井上和幸</p>	<p>(株)トミタ 会長 富田正一</p>	<p>(株)大澤口ーヤル 代表取締役 大澤忠政</p>	<p>京橋</p>	<p>(株)プレナス 代表取締役社長 塩井辰男</p>	<p>いちよし証券(株) 代表取締役社長 玉田弘文</p>	<p>(資)北見商店 代表社員 北見まさこ</p>	<p>北見不動産(有) 代表取締役社長 北見芳夫 代表取締役社長 北見千穂</p>	<p>八丁堀 茅場町・兜町</p> <p>小宮山印刷(株) 代表取締役社長 小宮山貴史</p>

奉納書初展

令和四年一月六日(木)午後二時より奉納書初展感謝奉告祭を執り行い、書初展奉納作品を一月十五日(土)迄境内に展示しました。

今年の宮司賞は九段中等教育学校山田麻史さん、氏子崇敬会長賞は九段中等教育学校五十嵐奈桜さんが受賞されました。

今年も感染症対策のため祭典は神職のみで執り行い、山王奉書会は中止致しました。



第五十八回 山王奉書会 表彰者芳名(順不同)

宮司賞

九段中等教育学校三年 山田 麻史 殿

氏子崇敬会長賞

九段中等教育学校二年 五十嵐奈桜 殿

秀作

番町小学校三年 鈴木 袖華 殿

九段中等教育学校二年 植村 実央 殿

大妻中学校一年 木場 彩乃 殿

暁星中学校一年 宇田川温人 殿

明正小学校六年 田中 奏 殿

山脇学園中学校二年 高橋 有咲 殿

山脇学園中学校一年 松尾 瞳 殿

麹町中学校三年 鈴木 ひな 殿

三輪田学園中学校一年 水落菜乃栞 殿

お茶の水小学校六年 中川奈名子 殿

宮司賞を頂いて

千代田区立九段中等教育学校三年 山田 麻史

この度は、宮司賞という賞を頂き、大変光栄で嬉しい限りです。本当にありがとうございます。正直なところ、自分がこの賞を頂くということを全く想像していなかったため、自分の作品について宮司賞という文字を見た時、とても驚きました。

私は小学生の頃、書道習いのびのびと字を書いていて、先生にご指導を受けながら、自分が好きなように書くことを楽しんでいました。

中学生になってからは、家で書道することが難しくなったため、書道部に入りました。部員の皆さんの字は本当にきれい

で圧倒され、これまで自分があまり考えず、自由に字を書いていたことを反省しました。なかなか上達しない私でしたが、先生方は丁寧に指導して下さいました。

今回私は、先生のお手本の中から「美しい地球」という言葉を選びました。「美」という文字にインパクトがあり、素敵だと思つたことと、全体的にバランスが良いと思つたことが理由です。実際に書いてみると、文字のはねやはらい、バランスが予想以上に難しかったのを覚えて

います。そのため、お手本をよく見て、先生に頂いたアドバイスを思い出しながら、一文字一



文字集中して書くことを意識しました。
コロナの影響で部の活動が減ってしまったこともあり、限られた時間の中で作品を仕上げなければなりませんでしたが、いつもより集中して書き上げることができたと感じます。しかし、これに満足せず、より素敵な字が書けるように精進していきたいと思つています。

最後になりますが、熱心に指導して下さいました先生方、コロナ禍の中でも展示の機会を下さった日枝神社の方々にとっても感謝しております。ありがとうございます。

氏子崇敬会長賞を受賞して

千代田区立九段中等教育学校二年 五十嵐 奈桜



な字を目標にして、書に励みたいと思つています。

この度の奉納書初展において、氏子崇敬会長賞に選んでいただき、ありがとうございます。これまで日枝神社の書初展には何度か出展させていただきましたが、これまでの賞は頂いたことがありませんでした。これまでの書道活動をこの賞で評価いただくことに對して、驚きとともにとても嬉しく感じております。

私は、今回の出展にあたって「広い宇宙」という語句を選びました。この語句は、全体の文字数が四文字、それぞれの画数が二画から八画と、少ない字数・画数で構成されています。そのた

め、小さく縮まって見えないように、線や文字全体のバランスを整えることを意識しました。また、字の中心を揃えるために空間のとおり方を工夫したり、綺麗にまとめて仕上げるために筆の運び方に気を付けたりと、多くの事に気を使いました。

はじめはうまく書けなかった字でも、練習を重ねることで自分が納得できる字に仕上げることでできました。このことから、改めて日々の練習を継続することの大切さを感じました。これからも自分が納得できる字や、見てくださいる方々の記憶に残るよう

な字を目標にして、書に励みたいと思つています。

寄稿

徳川家定の江戸山王社参繪卷

武蔵大学教授 福原敏男

令和四年（二〇二二）三月、京都の古書肆「衆星堂古書目録」に載った「徳川家慶御宮山王御参詣行列図」は、日枝神社にめでたく収まった。

本絵巻は紙本著色の乾坤二巻一組で、天地は各二二・七cm、長さは乾巻一一・八一m、坤巻九・七九mであり、行列背景の景観は一切描かれない。

絵師は不詳で、文字情報としては、乾坤両巻の表紙題賤「尾張大納言公行列之絵巻」と、坤巻末の「文政十二（一八二九）己丑年九月十八日 大納言様紅葉従御宮山王江御参詣」のみである。題賤は文字や料紙より明治以降の筆であり、なぜ「尾張大納言」とされたものか不明である。

確かに、尾張藩第十一代藩主、徳川斉温（な

りはる、絵巻の年十一歳）は、参詣当時の第十一代将軍徳川家斉の息子で、将軍家からの養子という関係もあり、絵巻伝来の途次、彼の参詣とされたのであろう。

一方上記の古書肆は、家斉の次男で将軍継嗣の家慶（後の十二代将軍）の参詣と考えたのである。

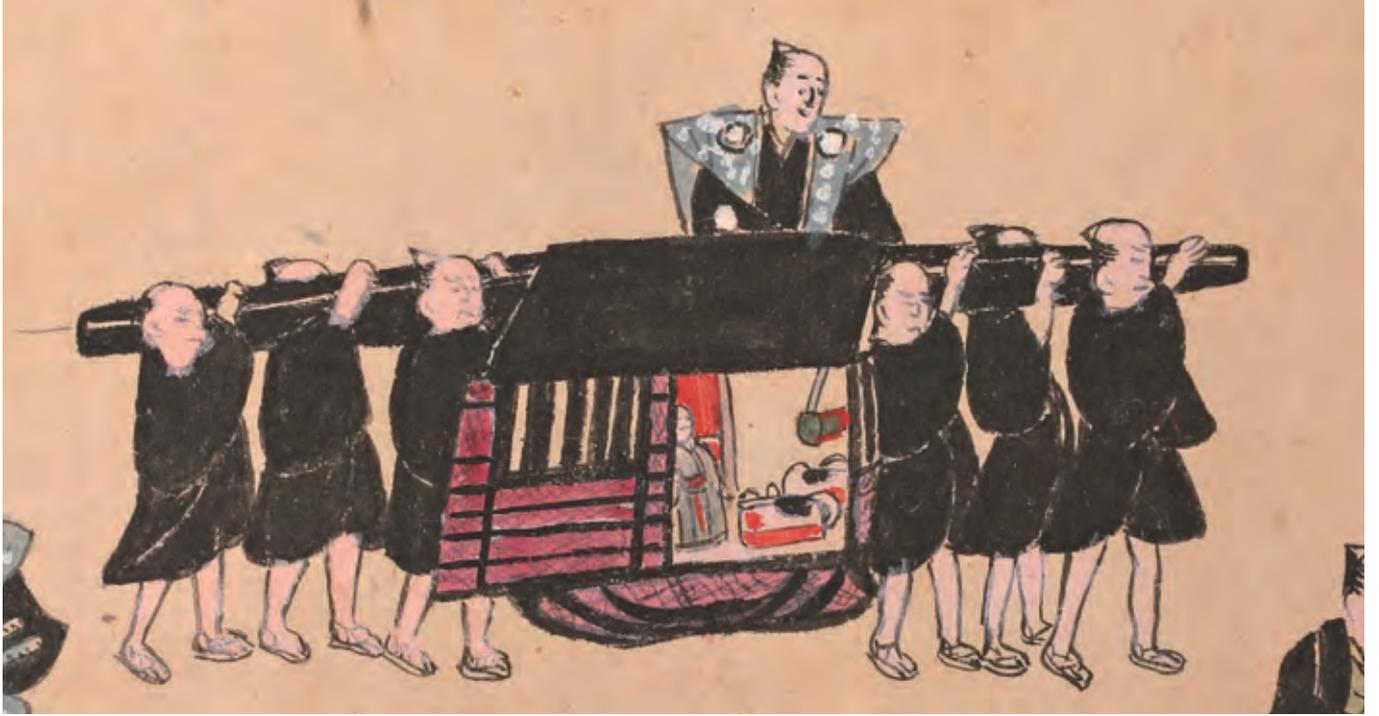
しかしながら絵巻内容よりすると、家慶の四男で前年に元服した六歳の家定（後の十三代将軍）一行の参詣絵巻であり、『続徳川実紀 第二編』（巻六十四）には次のように記される（以下、意訳する）。

本来、「大納言（家定）」の参詣は前日の九月十七日の予定であったが、雨天のため十八日に延期された。

まず紅葉山東照宮に、松平和泉守乗全が



警固の武具（図は全て日枝神社蔵「徳川家定の江戸山王社参繪巻」より）



駕籠の徳川家定を守る筒守と犬張子

代参して太刀と黄金一枚を進薦(奉納)した。

その後、家定一行は山王権現へ参詣し、太刀「肥前國忠廣」と神馬を奉納した。参詣後に井伊邸で休み、同家では一族が拝謁して様々な進物をした。これに対して、家定よりも様々な応答品が贈られた。この後井伊直亮父子は、城内御座所まで行つて謝した。

翌十九日、昨日の家定宮参りの祝儀のため、御三家をはじめとし群臣の江戸城総出仕がなされ、日光門跡、御三家や諸大名などは使者を遣わして進物をした。

以上のように、祖父や父が幼い家定を伴つた参詣ではないものの、幕府にとって大規模な臨時行事であつた。

また、東照宮参詣は松平和泉守による代参とあり、さらに奉納品の質から考えても、筆者は本絵巻を「徳川家定の江戸山王社参絵巻」と命名した。

さて、十八日の長蛇の社参行列次第については、『続道聴塗説』第一編に詳しく、『日枝神社史 全』(日枝神社編集・御鎮座五百年奉賛会発行、一九七九年)に載る。

この記述内容は本絵巻と同様であり、乾



神馬の奉納



絵巻乾坤(木箱付き)

巻には家定が描かれる。しかしながら、『続道聴塗説』には畏れ多いものか、「駕籠内の筒守と犬張子」の記載である（他の人びとも幕府内や本行列での役職名である）。

行列の先頭に神馬、家定の駕籠には子供の道中の魔除けである筒守が吊され、犬張子を御守とする。婚礼や小児の誕生・宮参りの祝儀の贈り物とされた犬張子は、夜間の邪霊や魔を祓う効能を信じて寝所に置かれた。

その後方では、二頭の犬が牽かれ、大紋の大目付や直垂の老中が続く。葦目と弓を持つ与力は呪的守護のようであり、医師たちも駕籠や徒歩で続く。高家や奥向面々（簾中）の後ろには、直鎧・鍔鎧・十文字・抛鞘・直鎧・長刀が横並びとなり、法螺貝と太鼓役も続く。

以上のように、幼い家定の外出を現実的（幕府の重臣や武具）、医学的、呪的に守護したのである。

『続道聴塗説』には続けて「山王御宮巡之節御行列」も載るが、前述の長蛇の列のうち、以下が選ばれている。

大目付や老中、葦目・弓を持つ与力、若年寄、医師、高家や奥向面々などである。

それではなぜ、数え六歳の家定主役の社参が、幕府をあげて大々的になされたのであろうか。

祖父家斉同様、父家慶の多くの子女は早世し、成人まで生き残ったのは家定くらいとされる。

その家定も幼少の頃から病弱で、患った痘瘡のため目の辺りに痣が残り、人前に出ることを極端に嫌ったという。

また家定がしばしば起こした癩よりすると、脳性麻痺を患っていたとする説もある（四肢の不随意運動や筋緊張の変動などの症状）。

両社への参詣は家定の平癒祈願にあったものと思われるが、幕府にとって近い将来の將軍継嗣選択を考える上でも、重要な行事であった（それ故、参詣行列を写生させた武家もあつたのである）。

家定の病状はその甲斐もなく進行し、天保十二年（一八四一）の家斉死後、家慶が將軍継嗣を決める際、家定の資質を心配したともされる。

將軍就任以後は指導力を示せず、幕政は老中の阿部正弘や堀田正睦によって主導さ

れていく。

子のない家定には就任直後から後継問題が浮上し、候補として井伊直弼ら南紀派が推薦する紀州藩主の徳川慶福（後の十四代將軍家茂）と、一橋派が推す一橋慶喜（徳川慶喜）があがった。

この両派が將軍継嗣をめぐる争っている最中、家定が表舞台に出ることはほとんどなかったが、安政五年（一八五八）六月二十五日、家定は従弟の慶福を継嗣にするという意向を諸大名に伝えた。

そして同年七月五日に一橋派諸大名の処分を発表した翌日、家定は享年三十五歳の若さで死去し、養子となった慶福改め家茂が跡を継いだのである。

参考文献：篠田達明『徳川將軍家十五代のカルテ』（新潮新書、二〇〇五年）、久住真也『幕末の將軍』（講談社、二〇〇九年）

献灯祭

六月十三日十七時

献灯祭とは神前に灯明を奉納し、ご加護をお祈りする祭典です。

例年十三日、十四日、十五日の三日間行われ、祭典の後には奉納された灯の明りの下、納涼大会 盆踊りが行われます。この盆踊りは日本一早いと言われ、夏の訪れを告げる風物詩として親しまれております。

また、お子様が願いを込めて描いた絵を灯籠として境内に掲げる「絵灯籠奉納」も行っています。

今年はコロナ禍の為、祭典は十三日のみとなり納涼大会も行われませんが、御参拝の折には皆様をお願いを籠めた灯籠の灯りをご覧ください。



山王祭事曆

山王祖霊祭

九月二十三日(金)十一時

日枝神社新嘗祭

十一月二十三日(水)十一時

各祭典は感染症の状況により神職のみで執り行う可能性がございます。

また、緑陰朝詣りとラジオ体操の集い、箸感謝祭、日枝神社中秋管絃祭、敬老祭は中止致します。
何卒ご了承ください。



山王台通信

就任

責任役員 細田 眞殿

株式会社榮太樓總本鋪

令和四年四月一日付

神社本庁辞令

主典 杉本 磨彩氣

日枝神社権禰宜に任ずる
令和四年四月一日付

新入職員紹介

出仕 セレストハルト
東京都出身
國學院大學神道文化学部
神道文化学科卒

出仕 佐々木英壽
埼玉県出身
埼玉県立
國學院大學神道文化学部神道
文化学科卒

巫女 平山 果穂
千葉県出身
明海大学ホスピタリティ
ツーリズム学部卒

巫女 飯島 沙織
東京都出身
明海大学ホスピタリティ
ツーリズム学部卒

巫女 石成 彩華
東京都出身
東京ウエディング&ブライダル
専門学校卒

囀託 高橋 治彦

囀託 高橋 政晴

令和四年四月一日付

御神米づくり 田植祭

令和四年四月二十九日(金)に御神米づくり御田植祭を執り行いました。

今年も感染症対策として、神職のみで祭典を奉仕し、田植を行いました。



〈通巻百四十号〉

発行 令和四年六月一日

編集 日枝神社社務所

東京都千代田区永田町二丁目十番五号

(郵便番号 100-0014)

TEL 03-3581-1247(代表)

FAX 03-3581-1277

<http://www.hiejinja.net/>

日枝神社の最新情報をチェック!

日枝神社 山王祭公式アプリ

無料

iOS 端末 android 端末 対応

ホームページ・Twitter・Facebookでも情報を公開しています。QRコードもしくはURLからご覧ください。



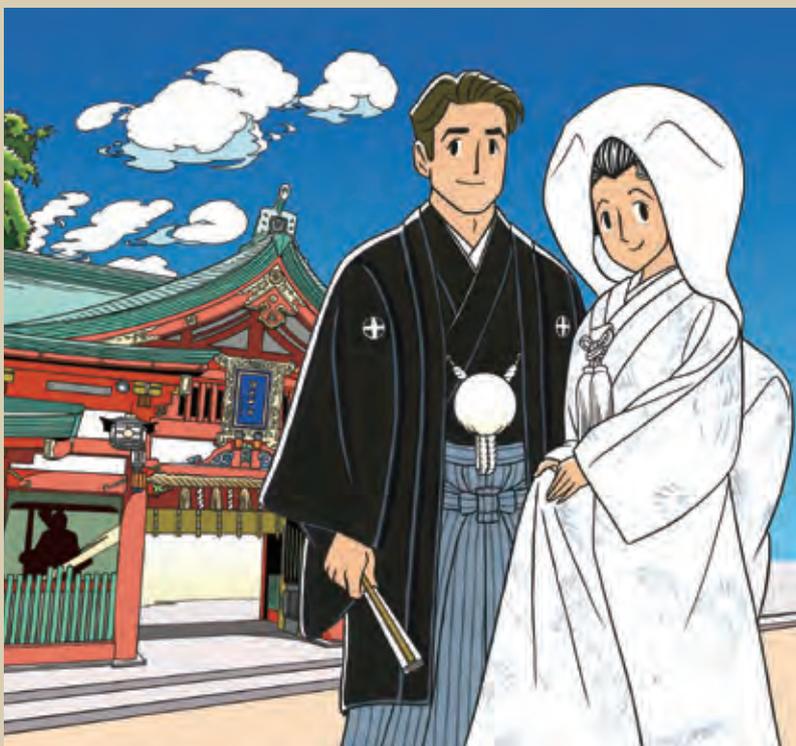
山王祭
公式ホームページ
<http://www.tenkamatsuri.jp/>



日枝神社
公式 Instagram
<https://www.instagram.com/hiejinja>



日枝神社
公式 Facebook ページ
www.facebook.com/hiejinja/



©わたせせいぞう

婚礼お下見
随時受付中

9:00 ~ 16:00

詳しくはお問合わせ下さい。



日枝神社
結婚式場

日枝 あかさか

東京都千代田区永田町2丁目10番5号
TEL.03-3502-2205 FAX.03-3502-8948
<http://www.hieakasaka.net/>